

日野市史

通史編四

近代
現代



日野市史

通史編四

近代
現代

題字 丸山 繼 溪

目次

口 序 序 凡 例 繪

大正・昭和編

第一章 大正期の日野

第一節 明治から大正へ

一 明治の終焉

五十子敬齋の日記(三)

二 「オールド・ニッポン」の終幕

三

三

三

六

第二節 第一次世界大戦と日野

都市労働者の状況(六) 農村の状況(七) 大正國民の覚悟(八)

一 世界大戦の勃発

南多摩郡民への訓令(一〇) 青島陥落に沸き立つ七生村(一〇) 五十子敬齋の戦局予想(二)

戦時体制への動き(二三)

二 天皇制イデオロギーの徹底

即位大典式と立太子礼(二五) 御眞影の配布(二六) 教員の表彰・叙勲(二七)

秋間為子と錦秋実科女学校(二七)

三 教育施設の整備・拡充

日野小学校の増築(三〇) 潤徳小学校の増築(三二) 平山小学校の増築(三三)

児童数と教員の状況(三三) 実業補習学校(三四) 南多摩郡教育会と七生村教育会(三五)

第三節 大正デモクラシーの波及

一 政党内閣政治の展開と三多摩壮士

憲政擁護運動と三多摩壮士(三六) 三多摩壮士帝都をまかり通る(三七)

大正デモクラシー下の衆議院議員選挙(三九) 森久保作威の政界引退(四〇)

村野常右衛門の落選(四一) 郡制の廃止(四二)

二九

二九

二〇

一五

一〇

一〇

二 青年団の活動……………四三

青年団の修養機関化と杜丁予備教育化(四三) 程久保青年会(四四)
七生村青年会(青年団)と南多摩郡青年団(四七)

三 女性の社会進出……………五〇

日野町淑女会と全国の処女会(五〇) 処女会の方針転換(五三)

四 文化生活の波及……………五三

電灯の点火(五三) 電信・電話の開通(五六)

五 観光・行楽の流行……………五七

近い避暑地日野(五七) 高幡山と不動尊(五八)

六 伝染病の流行と保健・衛生……………五九

伝染病流行の本場東京(五九) 三多摩地方の伝染病(六〇) トラホームの蔓延(六〇)
伝染病対策に着手(六一)

第四節 第一次世界大戦の影響……………六五

一 国家総力戦体制への準備……………六五

大戦後の国際的・国内的情勢の変化(六五) 民力涵養ニ関スル内務省訓令(六六)
民力涵養ニ関スル戦後必行要項(六七) 南多摩郡下の思想善導政策(七一)

二 軍国主義体制の強化……………七三

武相陸軍特別大演習(七三) 在郷軍人会の役割変化(七五) 青年団の戦時動員強化(七六)

三 体育・スポーツの振興……………八三

体育奨励政策(八三) 南多摩郡青年団運動会(八四) 七生村選手予選運動会(八六)
国民の運動体育が最大急務(八七)

四 関東大震災……………八八

日野の九月一日(八八) 朝鮮人暴動の流言(八九) 流言への対応(九〇) 災害への対応(九〇)
災害への救護実施(九六) 大震災の被害状況(九六)

第五節 大正期の町村財政と農業……………一〇〇

一 大正初期の町村財政……………一〇〇

経費の膨張と町村税の増徴(一〇〇)

二 大正中・後期の決算額の推移……………一〇八

第一次大戦と諸物価の急騰(一〇八) 義務教育費国庫負担金制度の発足(一一一)
教員俸給の改定と国税附加税制限の緩和(一一二) 義務教育費国庫負担額の増額(一一三)
大正中・後期の日野町と七生村の財政(一一三)

三 大正期の日野町・七生村の農業……………一一八

農家戸数と専業比率(二六) 農業収入の内訳と主な農作物(二六) 穀類の作付反別と収穫量(三三)
共進会と農事改良(三六)

第六節 大正期の交通

一 道路交通

地方道の改修(三三) 道路法の制定(三三) 郡道・町村道の認定(三三) 多摩川の架橋工事(三五)
筏士・行人・旅芸人などの通行と宿泊(三六)

二 玉南鉄道の開業と合併

京王電気軌道の創業(三九) 玉南鉄道の建設と開業(四〇)

一三〇

一三〇

一三九

第二章 昭和恐慌期の日野町と七生村

一四七

第一節 大恐慌下の民衆運動

一四七

一 失業救済事業の展開

一四七

大恐慌は戦争への道(四〇) 東京府の失業問題対策(四六)

二 日野の小作争議

一四九

東京府の小作問題(四七) 日野の小作争議(五一)

三 ゆれ動く教育界

一五二

国民教育教化動員の実施(五三) 義務教育費国庫負担問題(五三) 日野の教育状況(五四)
潤徳小学校児童の同盟休校事件(五七)

第二節 昭和恐慌期の町村の財政

一五九

一 町村税の減収と財政の窮迫

一五九

調定額の減少と滞納の増加(五九) 起債と失業救済農山漁村振興対策(六四)

二 救農土木事業と農村経済更生運動

一六七

恐慌の深化と時局匡救事業(六六) 日野町と七生村の救農土木工事(六六)
経済更生村の指定と七生村経済更生計画(六七)

第三章 十五年戦争期の日野

一七九

第一節 「満州事变」前後

一七九

一 普選後の政党政治

一七九

普通選挙法と治安維持法の成立(七七) 第一回普通選挙(七八) 南多摩郡の総選挙結果(八二)

普選初の府会議員選挙(八二) 第二回普通総選挙(八二) 柳条湖事件、五・一五事件とその後(八三)

第三回普通選挙(八四) 府会議員選挙と日野町議会議員選挙(八五)

二 選挙粛正運動

一八六

選挙粛正運動のねらい(二六六) 先頭に立った日野町(二六七) 第二次選挙粛正運動(二六八)
日中戦争前夜の選挙(二七〇)

三 三多摩地方の社会運動……………一九二

労働運動の組織化と展開(二七二) 社会大衆党と労働運動(二七四) 非合法運動(二七六)

四 軍事動員体制の強化……………一九七

兵役服務者の調査(二七九) 壮丁調査(二八〇) 満州事変勃発以後の動員(二八二)
在郷軍人会と青年団への軍事思想強化(二八四)

五 軍国主義教育の徹底化……………二〇三

小学校に国体明徴教育(二〇三) 中学校の聯合戦闘大演習(二〇四)
実業補習学校・青年学校の重視(二〇五) 教育界の実態(二〇六)

六 「満州事変」前後の国民生活……………二〇七

生活改善のとりきめ(二〇七) 防空体制の実施(二〇八) 当時の日野の治安(二〇九)
防疫と衛生の普及(二一一) 体育・スポーツの軍国主義化(二一二) ファッション 団体の養生(二一四)

第二節 「日中戦争」の時代……………二一六

一 日本ファシズム体制下の政治と社会……………二一六

政党的解消(二一六) 大政翼賛運動(二一七) 日中戦争開始後の労働運動(二一八)

二 国家総動員体制の確立……………二一九

国民精神総動員運動(二一九) 戦死・傷病者と遺家族への対策(二二〇) 相次ぐ軍事動員(二二四)

三 日中全面戦争下の国民生活……………二二五

大工場の進出(二二五) 日野町と七生村の合併問題(二二六) 統後の国民(二二七)
切符配給制の開始(二三三) 常会の運営(二三三) 児童報国運動(二三三)

軍事教練と勤労働員の重視(二三三) 人的資源としての青年学校・青年団(二三四)

聖職者といわれた小学校教師(二三四) 戦時体育の重視(二三四) 亡国病の蔓延と出生率の減少(二三四)

治安の強化と防諜(二三四) 空の護り(二四九)

四 東京府拓務訓練所と満蒙開拓青少年義勇軍……………二五一

満州農業移民政策(二五二) 東京府の移民政策(二五二) 東京府拓務訓練所の開設(二五三)

第一期生の渡満(二五三) 満蒙開拓青少年義勇軍の養成(二五六) 教職員にも土の教育(二五七)

拓務訓練所の新方針(二五八) 三多摩郷建設の夢(二五九)

第三節 アジア・太平洋戦争の時代……………二六二

一 三多摩包含の都制促進運動……………二六二

特別市制運動と八王子市・三多摩郡(二六二) 内務省地方局案に対する批判(二六三)
帝都としての都制(二六三)

二 翼賛政治体制……………二七一

- 翼賛選挙(三七二) 三多摩郡の翼賛選挙(三七三) 日野町会・七生村会議員の選挙(三七四)
- 大日本翼賛壮年団(三七四)
- 三 根こそぎの軍事動員……………二七六
 - 戦局の推移(三七五) 兵力の大動員(三七七) 皇国農村の建設(三七六) 松根油の供出(三七六)
 - 産業戦士という名の強制労働(三七五) 戦時統制経済の崩壊(三七六)
- 四 終局への奈落……………二八六
 - 本土決戦体制(三七六) 七生村の地下工場(三七七) 学童疎開の受け入れ(三七六)
 - 運かった「聖断」(三七五) 満州農業移民の悲劇(三七四)

第四章 都市化の進展と日野市の誕生……………三〇一

第一節 戦災と復興……………三〇一

- 一 戦災と戦後の町村……………三〇一
 - 空襲と戦災(三〇二) 戦没者と戦没地(三〇三) 終戦後の日野―市民の日記から―(三〇三)
 - 生活物資の配給(三〇六) 農産物の供出(三〇四)
- 二 復興への歩み……………三二六
 - 農業生産の回復(三三六) 工業生産の再開(三三三) 運動会・文化講座などの開催(三三五)

第二節 農地改革と町村合併……………三三八

- 一 農地改革の実施……………三三八
 - 農地改革法と関連法規の公布(三三六) 農地委員会の発足と農地改革の開始(三四〇)
 - 農地買収の経過(三四一) 農地売渡しの進展(三四二) 農地改革の結果(三四二)
- 二 日野町と七生村の合併……………三五五
 - 地方自治法と自治体行政(三五五) 町村合併促進法の公布・施行(三五六)
 - 東京都町村合併審議会と合併計画の策定(三五七) 合併計画に対する日野町と七生村の対応(三五八)
 - 合併への動きと東京都との折衝(三五九) 新市町村建設促進法の施行と新勧告(三六〇)
 - 廃置分合処分の申請と合併(三七一)

第三節 都市化の進展と日野市の誕生……………三七八

- 一 転入人口の急増と都市化の進展……………三七八
 - 経済復興と都内人口の増加(三七九) 日本住宅公団の設立と多摩平団地の開発(三七九)
 - 市街地開発区域の指定と工場誘致条例の制定(三六五) 平山台の開発(三六八)
 - 公営住宅と公共施設の建設(三六八)
- 二 市制施行と日野市の発展……………三九一
 - 市制施行への動き(三九二) 市制施行と祝賀行事(三九五) 市制施行前後の産業別就業人口(三九七)
 - 公共施設の建設と市財政の膨張(四〇二) 転入人口圧の増大と七生地区の開発(四〇五)

第五章 戦後教育の展開

第一節 戦後の教育改革

- 一 戦後教育の出發……………四一五
 - 疎開児童の引揚げと戦災孤児の収容(四三)
 - 教育改革の推進(四七)
 - 教育基本法と学校教育法の制定(四六)
 - 新生小学校の出發(四〇)
 - 新制中学校の発足と苦悶(三一)
- 二 教育委員会の設立……………四二四
 - 教育委員会制度の成立(四四)
 - 公選制教育委員会の発足(四四)
 - 任命制の教育委員会(四六)

第二節 六・三制の出發

- 一 日野町の小学校……………四二八
 - 日野小学校の学校整備(四六)
 - 分校・分教場の独立(四〇)
- 二 七生村の小学校……………四三四
 - 潤徳小学校の取組み(四四)
 - 平山小学校の整備事業(四五)
 - 新しい教育の模索(四六)
- 三 新制中学校の設立……………四三七
 - 日野町立日野中学校(四七)
 - 日野町立日野第二中学校(四六)
 - 七生村立七生中学校(四八)

四 PTAの発足と活動……………四四一

PTAの発足(四二) PTAの活動(四二)

五 給食の開始……………四四四

学校給食法発布(四四) 七生村の学校給食(四四) 日野町の学校給食(四五)

第三節 日野町・七生村の教育新事業

- 一 町政回顧と教育財政……………四四七
 - 町政回顧(四七)
 - 教育財政の変遷(四七)
- 二 奨学資金条例の制定……………四五一
 - 奨学資金の交付対象(四五)
- 三 社会教育法の公布……………四五二
 - 社会教育の定義(四五)
 - 日野町社会教育(四五)
 - 七生村社会教育(四五)

第四節 日野町・七生村の合併と教育の整備

- 一 日野町・七生村の合併と教育問題……………四五五
 - 合併後の統合計画(四五)
- 二 人口急増と新設校の建設……………四五九

年少人口の増加(四六五) 七生地域の人口急増(四六六) 小中学校の新設(四六六)
児童・生徒・教職員数(四六六)

三 防音校舎建設と施設設備の改善……………四七三

防音校舎建設の社会的背景(四七三) 鉄筋防音校舎の建設(四七五) 四十年前後の防音校舎(四七六)
鉄筋防音校舎の完成(四七七) プール・体育館の建設(四七八)

四 心身障害学級と訪問学級の設置……………四八一

心身障害学級の設置(四八〇) 日野の心身障害学級(四八二) 訪問学級の設置(四八二)

五 市立幼稚園……………四八三

義務教育化を目指して(四八三) 後続の市立幼稚園(四八五) 教育費の膨張(四八六)

第五節 都立高校の誘致と教育機関の開学……………四八八

一 都立日野高等学校の誘致……………四八八

高校生急増対策(四八八) 三多摩格差是正の要求(四八九) 日野高校の誘致(四九〇)

日野高校の発足(四九二)

二 大学・短大の開学……………四九二

明星大学(四九三) 実践女子大学・実践女子短期大学(四九三) 東京都立科学技術大学(四九四)

三 専門学校・養護学校の開校……………四九五

東邦歯科医療専門学校(四九五) 都立七生養護学校(四九五)

四 企業内教育の開校……………四九七

日野工業高等学園(四九七) 東電学園(四九八)

第六節 社会教育の充実……………四九九

一 活動施設の設立……………四九九

中央公民館の設立(四九九) 日野社会教育センターの設立(五〇〇)

二 社会教育活動……………五〇二

社会教育活動の展開(五〇三) 青年教育(五〇三) 婦人教育(五〇四) 成人教育(五〇五)

文化団体とスポーツ団体(五〇六)

三 図書館活動のあゆみ……………五〇八

コラム

百草園と田山花袋……………六四

市内の京王線駅……………一四六

日野煉瓦と甲武鉄道の建設……………二二七

中央線の複線化と日野駅の移転……………二二八

平山ゴルフ場(武蔵野カンツリークラブ平山コース)……………二五〇

三角屋根の「鮫陵源」……………	二九八
四月四日の日野の空襲……………	三〇三
都立多摩動物公園の開園……………	三七六
資料提供者ならびに協力者一覧……………	五一一
執筆分担……………	五一二
あとがき……………	五一三
日野市史編さん関係者名簿……………	五一四

見返し

表 日野多摩川の渡船・中央線多摩川鉄橋
 (大正八年「日野名勝絵葉書」より)
 裏 百草園より落川方面をのぞむ
 (昭和十年頃)

大正・昭和編